2019年11月14日

**セキュリティによる入退室状況印字のご提案**

**―　社員・来客の認識及びシステム管理によるセキュリティ強化の実現に向けて　―**

【現状分析】

2019年4月にセキュリティ対策として株式会社○○○○にICカードをかざすタイプのセキュリティシステムを導入しました。

これにより○○○○では社員を始め来客された方々もフロア間を入退室する際にはICカードをかざすようになりました。その一方で複数でフロア間を入退室した場合、ICカードをかざさずにフロア間の入退室する人々も目立ち始めております。

また、ICカードはユーザーに対してそれぞれ相当の権限に基づいて作られておりますが、フロア間の入退室による権限に対する制御が正しく行われているか不明な状態である事が判明しました。

【問題点と課題】

社員・来客のフロア間の入退室が不正に行われていること、権限に基づいた制御が正しく行われていない可能性があることが課題だと考えます。そのため管理マシン及び運用マシンを設置して、まずはフロア間の入退室状況をファイル及び画面に印字して状況を把握することが必要です。

【テーマと主なポイント】

**「フロア間のセキュリティシステム強化の実現」**

**―社員・来客に対する認識及びシステム管理によるセキュリティ強化を目指して―**

・ICカードをかざした際に記録された情報を画面及びファイルに印字します。　→　各フロア間の入退室状況を明確にできる。ICカード使用によるフロア間入退室の教育につながる。

・入室及び退室且つ入退室エラーの場合は拒否の情報を印字します。　→　ICに対する権限による制御の確認につながる。

・フロア間の入退室に対して本来記録されるべき情報がない場合は画面及びファイルにあるべき行にない旨の情報を印字します。　→　フロア間の不正な入退室状況の把握及び社員に対しての教育の強化及びシステム改善



【具体的な企画内容】

1. 各ユーザーのフロア間入退室印字について

　ICカードをかざした際に記録された入退室状況を記録したファイルのカードID・ユーザー名・入退室日時・ドア番号等を読み込む。   
　カードID及びユーザー名は読み込んだ情報に対して前回と同一であれば画面及びファイルには印字しないこととする。

　日時及びドア番号については読み込んだ情報のドア番号に基づいて各フロアにレベルとして印字する。

1. ICカードでのユーザー権限について

　ユーザー権限はシステムライブラリアン・システムスーパーバイザー・システムスペシャリスト・システムユーザー・一般・来客に分類する。フロアのレベルも3まで設け、システムライブラリアン・システムスーパーバイザー・システムスペシャリストはフロアレベル３まで、システムユーザーはフロアレベル２まで、一般及び来客はフロアレベル１まで有効として、ICカードに登録されていることとする。

　閲覧画面及びファイルへは入退室状態を印字の他、フロア間の入退室にてエラーが発生した情報に対しては拒否として印字する。

1. 入退室状況の記録がない情報について

　本来記録されるべき情報に記録がない場合は、記録されるべき前後のフロアレベルを用いて画面及びファイルの記録されるべき行へ情報がない旨をメッセージとして印字する。

情報がない旨のメッセージ ： \*\*\*\*\* Level ○-->○

